

「へエ大きに。オイ馳山、一寸着物着せてんか」

「豪ら想に云ふない。サア此方へ來い、着せたるゾ」

「大きに憚りさん。序に此溝越やしてんか」

「邪魔臭い奴やなア。サアこれで宜えか」

「鳥渡此敷居もや」

「部屋に新弟子が出來て、用事が殖えるてな事有るやろうか……サア早ふ去なんせ」

「やア濟まんく。へエ親方大きに、稽古して貰ふて來ました」

「ウムそりや良かった。明日から毎日ごんせ。去んだら甚兵衛さんに宜しふ云ふて下んせ。朝日山が喜んどります。良い若い者を世話して頂きまして、これは横綱代物ぢやとナ……」

「へ、へ、。弄りなはん。併し稽古したら身體が大き成りますやろナ」

「ウム屹度立派に成る。休ますにごんせや」

「へエ左様なら……ア、あの親方は良え人やなア……馳山かて呟きく親切にして呉れよる。それにあの稽古して呉れた人も豪い良え人やつた。アノ禪を締める時に唄ふた歌。あれは良えナ。エー角力ーやんれエ。とリーにイは。何處が宜ふて惚れエたアエー。稽古ーやんれエ。もどーり……ア何や頭へ觸たと思つたら、馬の腹潜て來たんや。ア危険ア……オイ鼻。歸つたで……」

「オ、此方の人、お歸り……」

「イヤ今日から甚兵衛はんの世話で角力取に成たんや。これから此方の人と云わずに、鬨々と云え」

「まア貴郎。風邪引いたんか」

「何吐すね。兎に角腹が空いた。飯喰はふか」

「マア濟まん事。今薪を引いた處や。直ぐにお膳持ちえてお燗もつける依て、暫く奥で待つてとくなはれ」

「オ、此方の人……ア、左様々々。此方の人と云ふたら叱られる。モシ關。關取」

「ア、ウ、ム、ム。ヤ鼻、何ぢやナ」

「アノ御飯が出來ました」

「左様か宜しや。ア、アーツ(伸び)。併し鼻よ。稽古はせん成らん物ぢや。いつも俺れの起きるのが晚いと、大蒲團に捲き込んで押入れへ放り込まれるのぢやが、今俺しがグツと伸びをすると、それ此通り、手も足も蒲團の外へグツと出よるがな」

「そりや出る筈。座蒲團が着せて有るのや」